

アイセントレス<sup>®</sup>錠600mg  
に係る医薬品リスク管理計画書

MSD株式会社

アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg に係る  
医薬品リスク管理計画書 (RMP) の概要

販売名	アイセントレス <sup>®</sup> 錠600mg	有効成分	ラルテグラビルカリウム
製造販売業者	MSD 株式会社	薬効分類	87625
提出年月日		令和7年7月11日	

1.1. 安全性検討事項	
【重要な特定されたリスク】	【重要な潜在的リスク】
<a href="#">免疫再構築症候群</a>	<a href="#">腎不全</a>
<a href="#">重篤な皮膚障害</a>	<a href="#">胃炎</a>
<a href="#">過敏症</a>	
<a href="#">横紋筋融解症、ミオパチー</a>	
<a href="#">肝炎</a>	
【重要な不足情報】	
<a href="#">日本人 HIV 感染症患者に対するラルテグラビル 1200 mg (600 mg×2 錠) 1 日 1 回投与時の安全性</a>	
<a href="#">ラルテグラビル 1200 mg (600 mg×2 錠) 1 日 1 回投与の長期使用</a>	
<a href="#">妊娠中の女性への投与</a>	
1.2. 有効性に関する検討事項	
<a href="#">使用実態下における有効性</a>	
<a href="#">長期使用時における有効性 (薬剤耐性の発現を含む)</a>	

↓上記に基づく安全性監視のための活動

2. 医薬品安全性監視計画の概要
<a href="#">通常の医薬品安全性監視活動</a>
追加の医薬品安全性監視活動
なし
3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要
なし

↓上記に基づくリスク最小化のための活動

4. リスク最小化計画の概要
<a href="#">通常のリスク最小化活動</a>
追加のリスク最小化活動
なし

各項目の内容は RMP の本文でご確認下さい。

(別紙様式 1)

医薬品リスク管理計画書

会社名： MSD 株式会社

品目の概要			
承認年月日	2018年5月14日	薬効分類	87625
再審査期間	6年1日	承認番号	23000AMX00474000
国際誕生日	2007年9月27日		
販売名	アイセントレス <sup>®</sup> 錠 600 mg		
有効成分	ラルテグラビルカリウム		
含量及び剤形	含量：600 mg (ラルテグラビルとして) 剤形：フィルムコーティング		
用法及び用量	通常、成人にはラルテグラビルとして 1,200 mg (本剤を 2 錠) を 1 日 1 回経口投与する。本剤は、食事の有無にかかわらず投与できる。なお、投与に際しては、必ず他の抗 HIV 薬と併用すること。		
効能又は効果	HIV 感染症		
承認条件	<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。</li><li>(2) 本剤の使用に当たっては、患者に対して本剤に関して更なる有効性・安全性のデータを引き続き収集中であること等を十分に説明し、インフォームドコンセントを得るよう、医師に要請すること。</li><li>(3) 海外において現在実施中又は計画中の臨床試験については、終了後速やかに試験成績及び解析結果を提出すること。</li><li>(4) 再審査期間が終了するまでの間、原則として国内の全投与症例を対象とした製造販売後調査を実施し、本剤の使用実</li></ol>		

	態に関する情報（患者背景、有効性・安全性（他剤併用時の有効性・安全性を含む）及び薬物相互作用のデータ等）を収集して定期的に報告するとともに、調査の結果を再審査申請時に提出すること。
備 考	

## 変更の履歴

前回提出日：令和 5 年 11 月 2 日

### 変更内容の概要：

- 「1.1 安全性検討事項」の「重要な特定されたリスク」、「重要な潜在的リスク」及び「重要な不足情報」に対して実施した追加の医薬品安全性監視活動、並びに「1.2 有効性に関する検討事項」に対して実施した「アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg 一般使用成績調査」及び「アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg 特定使用成績調査」に関する記述を削除と【選択理由】を記載整備。
- 「2. 医薬品安全性監視計画の概要」の「追加の医薬品安全性監視活動」の項、並びに「3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要」から「アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg 一般使用成績調査」及び「アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg 特定使用成績調査」に関する記述を削除。
- 「5.1 医薬品安全性監視計画の一覧」における「アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg 一般使用成績調査」及び「アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg 特定使用成績調査」の実施状況及び報告書の作成予定日を更新。
- 「5.2 有効性に関する調査・試験の計画の一覧」における「アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg 一般使用成績調査」の実施状況及び報告書の作成予定日を更新。

### 変更理由：

- 1.～4. アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg 一般使用成績調査及びアイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg 特定使用成績調査が終了し、報告書を提出したため。

# 1. 医薬品リスク管理計画の概要

## 1.1 安全性検討事項

重要な特定されたリスク	
免疫再構築症候群	
	<p><b>重要な特定されたリスクとした理由：</b> 抗 HIV 療法により CD4 陽性細胞数が増加し T 細胞特異的な免疫応答が回復するに伴い、一部の患者において免疫再構築症候群（IRIS）が発現し、主な症状として感染症の再活性化又は悪化（ニューモシチス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、マイコバクテリウム・アビウム・コンプレックス感染症、ヘルペスウイルス感染症等）を引き起こすことが知られている。海外で実施された HIV 感染患者を対象とした 5 つの臨床試験（004、005、018、019 及び 021 試験；ラルテグラビル 100～600 mg を 1 日 2 回投与）の併合解析において、二重盲検期の IRIS の発現率はラルテグラビル群で 7 例/2,906 人年（0.24/100 人年）、対照群（プラセボ又は他剤群）で 3 例/1,540 人年（0.20/100 人年）であり、相対リスクは 1.24 で差はみられなかった（95%CI：0.28-7.41）。しかしながら、ラルテグラビル群で発現した IRIS のうち多くは重度で（うち 1 例は死亡例）、IRIS に関連する重篤な陰部ヘルペスも 1 例報告されていた。また国内外市販後においてもラルテグラビルとの関連性が否定できない症例を含む重篤な IRIS が報告されている。 以上より重要な特定されたリスクに設定した。</p>
	<p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b> 【内容】 通常の医薬品安全性監視活動 【選択理由】 製造販売後の IRIS の発現状況を監視する。</p>
	<p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b> 【内容】 通常のリスク最小化活動 ・ 電子添文の「重要な基本的注意」の項に「免疫再構築症候群」を、「重大な副作用」の項に「陰部ヘルペス」を記載し、患者向医薬品ガイドにもその旨を記載して注意を喚起する。 【選択理由】 ラルテグラビルを含む抗 HIV 薬には IRIS のリスクがあることを医療従事者に対し確実に情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
重篤な皮膚障害	

	<p><b>重要な特定されたリスクとした理由：</b>  海外で実施された健康成人及び HIV 感染患者を対象とした臨床試験において、低頻度ながら重篤な発疹が数例報告されている。また、海外で実施された HIV 感染患者を対象とした臨床試験 [018 及び 019 試験；ラルテグラビル 400 mg (400 mg×1錠) 1日2回投与] では、ラルテグラビル又はプラセボをダルナビルと併用した患者のうち、発疹（非重篤を含む）を発現した患者の割合はラルテグラビル群で 19.5% (44/226 例)、プラセボ群で 4.7% (5/106 例) で、ラルテグラビル群で数値が高かった。そのうち因果関係が否定できない発疹の発現割合はラルテグラビル群で 3.5% (8/226 例)、プラセボ群で 2.8% (3/106 例) であった。投与期間で補正した有害事象としての発疹の発現率はそれぞれ 8.1/100 人年と 2.7/100 人年、副作用としての発疹の発現率はそれぞれ 1.5/100 人年と 1.6/100 人年であった。また国内外市販後においてもラルテグラビルとの関連性が否定できない症例を含む重篤な皮膚障害 [皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群)、薬剤性過敏症症候群含む] が報告されている。  以上より重要な特定されたリスクに設定した。</p>
	<p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b>  <b>【内容】</b>  通常の医薬品安全性監視活動  <b>【選択理由】</b>  製造販売後の重篤な皮膚障害の発現状況を監視する。</p>
	<p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b>  <b>【内容】</b>  通常のリスク最小化活動  ・ 電子添文の「重大な副作用」の項に「皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群)」及び「薬剤性過敏症症候群」を、「その他の副作用」の項に皮膚関連の副作用を記載し、患者向医薬品ガイドにもその旨を記載して注意を喚起する。  <b>【選択理由】</b>  ラルテグラビルで重篤な皮膚障害が報告されていることを医療従事者に対し確実に情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>過敏症</p>	
	<p><b>重要な特定されたリスクとした理由：</b>  海外市販後において、ラルテグラビルとの関連性が否定できない症例を含む重篤な過敏症が報告されている。市販後での集積状況及び発現した場合の臨床的重要性を考慮し、重要な特定されたリスクに設定した。</p>
	<p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b>  <b>【内容】</b>  通常の医薬品安全性監視活動  <b>【選択理由】</b>  製造販売後の過敏症の発現状況を監視する。</p>

	<p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p><b>【内容】</b> 通常のリスク最小化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子添文の「重大な副作用」の項に「過敏症」を、「その他の副作用」の項に関連する副作用を記載し、患者向医薬品ガイドにもその旨を記載して注意を喚起する。</li> </ul> <p><b>【選択理由】</b> ラルテグラビルで重篤な過敏症が報告されていることを医療従事者に対し確実に情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
横紋筋融解症、ミオパチー	
	<p><b>重要な特定されたリスクとした理由：</b></p> <p>海外で実施された HIV 感染患者を対象とした 4 つの臨床試験（004、005、018 及び 019 試験；ラルテグラビル 100～600 mg を 1 日 2 回投与）の併合解析において、CPK 上昇の有害事象の発現率はラルテグラビル群で 2.45/100 人年、対照群（プラセボ又は他剤群）で 2.01/100 人年であり、相対リスクは 1.22（95%CI：0.61-2.72）で差はみられなかった。また、CPK 増加に関連する臨床症状の有害事象の発現はまれであった。</p> <p>しかしながら、国内外市販後において、ラルテグラビルとの関連性が否定できない症例を含む重篤な横紋筋融解症、CPK 上昇、ミオパチー及び筋炎等が報告されている。重篤な横紋筋融解症の多くは複数のリスク因子を有する患者で発現していたが、一部の症例でラルテグラビルとの関連性が強く疑われたことから、重要な特定されたリスクに設定した。</p>
	<p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p><b>【内容】</b> 通常の実薬品安全性監視活動</p> <p><b>【選択理由】</b> 製造販売後の横紋筋融解症、ミオパチーの発現状況を監視する。</p>
	<p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p><b>【内容】</b> 通常のリスク最小化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子添文の「重大な副作用」の項に「横紋筋融解症、ミオパチー」を、「その他の副作用」の項に関連する副作用を記載し、患者向医薬品ガイドにもその旨を記載して注意を喚起する。</li> </ul> <p><b>【選択理由】</b> 横紋筋融解症、ミオパチーに関する情報を医療従事者に対し確実に情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
肝炎	
	<p><b>重要な特定されたリスクとした理由：</b></p> <p>海外で実施された HIV 感染患者を対象とした臨床試験において、副作用として重篤な肝炎が 1 例報告された。国内外市販後においても、ラルテグラビルとの関連性が否定できない症例を含む重篤な肝炎が報告されていることから、重要な特定されたリスクに設定した。</p>

	<p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常 of 医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後の肝炎の発現状況を監視する。</p> <p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常 of リスク最小化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子添文の「重大な副作用」の項に「肝炎」を記載し、患者向医薬品ガイドにもその旨を記載して注意を喚起する。</li> </ul> <p>【選択理由】 肝炎に関する情報を医療従事者に対し確実に情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
重要な潜在的リスク	
腎不全	
	<p><b>重要な潜在的リスクとした理由：</b></p> <p>海外で実施された HIV 感染患者を対象とした臨床試験において、副作用として重篤な腎不全が 1 例報告された。国内外市販後においても、重篤な腎不全が報告されている。腎不全とラルテグラビルの関連性は十分に確認されていないが、発現した場合の臨床的重要性を考慮し、重要な潜在的リスクに設定した。</p> <p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常 of 医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後の腎不全の発現状況を監視する。</p> <p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常 of リスク最小化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子添文の「重大な副作用」の項に「腎不全」を記載し、患者向医薬品ガイドにもその旨を記載して注意を喚起する。</li> </ul> <p>【選択理由】 腎不全に関する情報を医療従事者に対し確実に情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
胃炎	
	<p><b>重要な潜在的リスクとした理由：</b></p> <p>海外で実施された HIV 感染患者を対象とした臨床試験において、副作用として重篤な胃炎が 1 例報告された。海外市販後においても、重篤な胃炎が報告されている。胃炎とラルテグラビルの関連性は十分に確認されていないが、慎重に監視していくことが必要であると考え、重要な潜在的リスクに設定した。</p>

	<p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常 of 医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後の胃炎の発現状況を監視する。</p>
	<p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常 of リスク最小化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子添文の「重大な副作用」の項に「胃炎」を記載し、患者向医薬品ガイドにもその旨を記載して注意を喚起する。</li> </ul> <p>【選択理由】 胃炎に関する情報を医療従事者に対し確実に情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>重要な不足情報</p>	
<p>日本人 HIV 感染症患者に対するラルテグラビル 1200 mg (600 mg×2 錠) 1 日 1 回投与時の安全性</p>	
	<p><b>重要な不足情報とした理由：</b> アイセントレス<sup>®</sup>錠 600mg は「HIV 感染症治療薬の製造又は輸入承認申請の取扱いについて」(医薬審第 1015 号、平成 10 年 11 月 12 日) に基づき承認申請を行い、平成 30 年 5 月 14 日に承認されているが、日本人患者における安全性に関する情報が得られていない。</p>
	<p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常 of 医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 本邦における使用実態下で、ラルテグラビル 1200 mg (600 mg×2 錠) 1 日 1 回の安全性を把握するため。</p>
	<p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 なし</p> <p>【選択理由】 現状、特記すべき注意喚起内容はなく、新たな情報が得られた際に検討する。</p>
<p>ラルテグラビル 1200 mg (600 mg×2 錠) 1 日 1 回投与の長期使用</p>	
	<p><b>重要な不足情報とした理由：</b> 海外臨床試験において、ラルテグラビル 1200 mg (600 mg×2 錠) 1 日 1 回投与の投与期間は最大 96 週であり、長期使用時における安全性データは限られている。 抗 HIV 療法における副作用には、発現までに時間を要する事象がある。</p>
	<p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常 of 医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 長期使用時の副作用等の発現状況を把握するため。</p>

	<p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 なし</p> <p>【選択理由】 現状、特記すべき注意喚起内容はなく、新たな情報が得られた際に検討する。</p>
<p>妊娠中の女性への投与</p>	
	<p><b>重要な不足情報とした理由：</b></p> <p>ラルテグラビルは治療上の有益性が危険性を上回ると判断された場合に、妊娠中の女性又は妊娠している可能性のある女性に使用される可能性があるが、妊娠中の女性は臨床試験の組入れ対象から除外されており安全性情報が不足しているため設定した。</p>
	<p><b>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常の医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後に、妊娠中の女性に投与された場合の患者本人及び出生児への影響を把握する。</p>
	<p><b>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</b></p> <p>【内容】 通常のリスク最小化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子添文の「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項に記載し、患者向医薬品ガイドにもその旨を記載し注意を喚起する。</li> </ul> <p>【選択理由】 妊娠中の女性への投与に関する情報を医療従事者に対し確実に情報提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>

## 1.2 有効性に関する検討事項

使用実態下における有効性	
	<p><b>有効性に関する検討事項とした理由：</b> 日本人の HIV 感染患者に対し、ラルテグラビル 1,200 mg（600 mg×2 錠）を 1 日 1 回投与し、有効性を評価した臨床試験データはないため。</p>
	<p><b>有効性に関する調査・試験の名称：</b> <u>なし</u></p>
	<p><b>調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由：</b> <u>なし</u></p>
長期使用時における有効性（薬剤耐性の発現を含む）	
	<p><b>有効性に関する検討事項とした理由：</b> 本薬は長期使用が想定されるが、日本人の HIV 感染患者に対し、ラルテグラビル 1,200 mg（600 mg×2 錠）を 1 日 1 回投与し、長期有効性を評価した臨床試験データはない。海外で実施された HIV 感染患者を対象とした臨床試験 [004、005、018、019、021、032、033、055 及び 071 試験；ラルテグラビル 100～600 mg を 1 日 2 回投与、並びに 292 試験；ラルテグラビル 1,200 mg（600 mg×2 錠）を 1 日 1 回投与] において、ラルテグラビルを服用し治療非奏効となった患者で、Q148H/K/R、N155H、Y143C/R/H の変異が検出されている。これらの変異による HIV のラルテグラビル感受性低下が治療非奏効に関連する可能性がある。</p>
	<p><b>有効性に関する調査・試験の名称：</b> <u>なし</u></p>
	<p><b>調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由：</b> <u>なし</u></p>

## 2. 医薬品安全性監視計画の概要

<b>通常</b> の医薬品安全性監視活動
通常 <b>の</b> 医薬品安全性監視活動の概要： 自発報告、文献・学会情報及び外国措置報告などの安全性情報の確認・評価
<b>追加</b> の医薬品安全性監視活動
なし

### 3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要

なし

#### 4. リスク最小化計画の概要

<b>通常のリスク最小化活動</b>
通常のリスク最小化活動の概要： 電子添文及び患者向医薬品ガイドによる情報提供
<b>追加のリスク最小化活動</b>
なし

## 5. 医薬品安全性監視計画、有効性に関する調査・試験の計画及びリスク最小化計画の一覧

### 5.1 医薬品安全性監視計画の一覧

通常の医薬品安全性監視活動				
自発報告、文献・学会情報及び外国措置報告などの安全性情報の確認・評価				
追加の医薬品安全性監視活動				
追加の医薬品安全性監視活動の名称	節目となる症例数 ／目標症例数	節目となる 予定の時期	実施 状況	報告書の 作成予定日
アイセントレス®錠 400 mg 使用成績調査	収集可能な全症例	安全性定期報告時 再審査申請時	終了*	作成済み (2018年9月提出)
アイセントレス®錠 400 mg 特定使用成績 調査	妊娠中に 400 mg 錠が 投与され、調査票の 収集が可能な全症例	安全性定期報告時 再審査申請時	終了*	作成済み (2018年9月提出)
アイセントレス®錠 600 mg 一般使用成績 調査	収集可能な全症例	安全性定期報告時 再審査申請時	終了	作成済み (2024年8月再審査申請にて提出)
アイセントレス®錠 600 mg 特定使用成績 調査	妊娠中に 600 mg 錠が 投与され、調査票の 収集が可能な全症例	安全性定期報告時 再審査申請時	終了	作成済み (2024年8月再審査申請にて提出)

\* 医薬品リスク管理計画策定以前より開始

### 5.2 有効性に関する調査・試験の計画の一覧

有効性に関する調査・試験の名称	節目となる症例数 ／目標症例数	節目となる 予定の時期	実施 状況	報告書の 作成予定日
アイセントレス®錠 400 mg 使用成績調査	収集可能な全症例	安全性定期報告時 再審査申請時	終了*	作成済み (2018年9月提出)

アイセントレス®錠 600 mg 一般使用成績 調査	収集可能な全症例	安全性定期報告時 再審査申請時	終了	作成済み (2024年8 月再審査申 請にて提 出)
アイセントレス®錠 600 mg 製造販売後臨 床試験(日本人におけ る薬物動態)	12例	安全性定期報告時	終了	作成済み (2019年6 月提出)

\* 医薬品リスク管理計画策定以前より開始

### 5.3 リスク最小化計画の一覧

通常のリスク最小化活動		
電子添文及び患者向医薬品ガイド		
追加のリスク最小化活動		
追加のリスク最小化活動の名 称	節目となる 予定の時期	実施状況
なし		